

消防団 ネット in 川口

平成 28 年 9 月 30 日

第 48 号

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部

消防団長 金子 利夫

発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局

電話 048-261-8102

支団紹介

3 支団の紹介です

第 3 支団は飯田支団長をリーダーとして第 1～第 3 分団、総員 39 名（女性 3 名）、地域の安全のため日々活動しております。

それでは各分団長から分団の特長をアピールした紹介をして頂きます。

第 3 支団第 1 分団長 大槻 元治

第 1 分団は、青木地区を受持ち団員 14 名（女性 1 名）で活動しています。

我が分団は、車庫が無く青木分署内に配置されておりその為、職員さんとは日々連携、協力しています。



毎月第 4 日曜日には、定期訓練を行っており各団員の技術等、向上に務め職員さん達が身近におられるので直接指導を頂ける事もあり自信に繋がっていると思います。

そして約 10 年以上に渡り青木北小学校 3 年生の地域学習の一貫として年に 1 回 [消防団について] の授業を行っております。

最後に先輩方が築かれた第 1 分団をこれからも地域住民に信頼される消防団として活動して行きたいと思えます。



第 3 支団第 2 分団長 野口 秀雪

第 2 分団は、川口市前川地区を中心に、隣接する上青木、芝地区を担当地区として活動をしています。

現在の在籍団員は飯田支団長をはじめ 14 名で活動しています。

活動としては、毎月第一日曜日を自主訓練日として、朝の 7 時～9 時まで火災出場に向けた放水訓練や礼式、心肺蘇生法等の訓練を行っています。

近年は異常気象により集中豪雨・突風など自然災害の発生などもあり、地域防災力の強化が必要です。

それには地域の皆さんとの連携も不可欠の為、町会の防災訓練等にも積極的に参加をしております。

第2分団の活動指針は

【消防団員としての自覚と誇りを持ち我が街を守るべく一致団結努力を惜しまず!目指せ川口 No1】

今後も熱く活動していきます。



第3支団第3分団長 増田 徹

第3分団は毎月8日に八日会という名前の定例会議と毎年一度の親睦旅行を実施し、情報伝達と親睦を図っています。

また訓練は年間計画表を作成し、放水訓練・勉強会（座学）等反復訓練を実施しております。

さらに各団員は第3分団のメンバーであると同時に飯田支団長率いる第3支団の一員であるとの認識が強く、この精神は平成12年の支団制が発足する以前の川口市消防団がまだ9分団制を施行していた頃からの脈々と続いている精神であります。



この精神は、実際に火災現場においては常に第1分団から第3分団までの各団員が連携を図りながら消火活動を実践している礎となっております。しかし近年はメンバー構成が40代・50代・60代が多く若手

の入団が急務となっております。

今後も地域の安心・安全のために邁進してまいります！

新企画

支団車庫紹介

どんな設備や装備があるのかな？

第10支団の車庫を紹介します。

第10支団は鳩ヶ谷地区鳩ヶ谷本町、桜町、里、辻、南鳩ヶ谷7丁目をエリアとし、3分団があります。それぞれ3分団の車庫を紹介します。

第1分団車庫は御成道まつりの会場のひとつにもなっている地蔵院の北側に位置しています。鉄骨造カラー鉄板折版葺の1階建。ポンプ車を入れるスペースだけで、詰所、トイレはなく水も引かれていないとのこと。第1分団車庫はもともと別の場所にありましたが、平成4年に移転しています。



第2分団車庫は鳩ヶ谷本町にあり、鳩ヶ谷商工会、郷土資料館の並びにある鉄骨造ALC版フルーデッキ2階建の建物です（S57.2 竣工）。2階は鳩ヶ谷本町2丁目の集会所となっていて、分団が使用しているのは1階のみです。車庫前に十分なスペースがなく、前を走る県道も幅員が狭いため、県道を挟んだ向かい側マンションに「消防活動用空地」があります。毎年開催される「おかめ市」の会場となる旧122号線に近いこともあり、第10支団の警戒詰所として使われています。



第1分団、第2分団とも、ポンプ車の格納と団員の装備装着スペースがある程度ですが、活動装備や、投光器、チェーンソー、ライフジャケットなど順次配布されている資機材が整理整頓されています。

3分団の中で一番大きい車庫が第3分団のものです。鉄骨造カラー鉄板折版葺の1階建。平成13年に竣工された建物です。芝川境橋近くの川口信金の裏手にあります。もとは国道122号線近くにありましたが、地下鉄の開通や里地区区画整理事業により現在の場所に移転したと思われます。



第3分団車庫には詰所があり、第10支団の会議はここで行われています。支団旗はここに収納されています。

第22回全国女性消防団員活性化 北海道大会

第2支団第1分団 班長 横田 由起

平成28年6月3日、札幌市に於いて開催され、全国各地から3000名以上の女性消防団員が集結されました。

各ブースでのパネルでの活動周知、活動事例発表、海外女性消防団の活動、火災予防啓発劇の他、今年から「仮装でアトラクションPR」という短時間の寸劇が行われました。

過去何度も活性化大会に参加していますが、火災予防啓発のみならず、応急手当に関しても、外国人向けに教材を作成、手技を実施したり、応急手当指導に力を入れている所が多くなった事も感じました。



毎年、全国の何処かで行われるこの大会は、各消防団が行っている活動事例を学ぶ場であり、情報や経験を共有しながら、創意工夫し活動していることが分かりました。

旭川市の旭川動物園園長の坂東元氏による記念講演、元スピードスケーターの岡崎朋美氏による特別講演もありました。

その後は情報交流会が開かれました。新たに交流をもった市町村には、川口市の場合、男性と性差ない活動をしている事が非常に新鮮だったようでした。

今回もまた、新たな気づきがあり、何かに活かしていけたらと思います。

みんな知ってる？

「火事と喧嘩は江戸の華」～江戸の町を救った本当の大岡裁きとは～

第11支団第3分団 部長 加藤耕誠

先日、林修氏の番組で東大の教授が「江戸の町火消を作ったのは大岡越前である」と言っていました。これは興味があるのでいろいろ調べてみて、少し掘り下げたことをまとめてみます。

かつて江戸は火災の多い街でした。過密な木造都市である江戸は、ひとたび火災が起きると瞬く間に燃え広がり大火となります。江戸城に江戸幕府のシンボルであるべき天守閣が無いのは、1657年の明暦の大火で焼失したからです。この大火での死者は10万7千人とも言われています。これは関東大震災や東京大空襲に匹敵する数です。このとき江戸城は本丸の再建だけで100万両かかっており、4代将軍家綱は天守閣を再建するより江戸の街の復興を優先させました。このように火災は幕府にとって大きな財政負担となりました。

さて当時の消防はというと、武家火消といういわば公務員の組織があり、幕府直轄で旗本を中心とする定火消と大名課役の大名火消がありました。現代の常備消防機関である消防吏員、職員が居る消防局(本部)ということになります。

8代将軍吉宗の時に幕府財政を立て直すため、いわゆる「享保の改革」が進められました。折しも南町奉行所の大岡越前守忠相は、「江戸の街を火災から守るには、郷土愛に満ちた町組織による火消し組が必要」と儒学者らの進言を受け、享保3年(1718)に町火消をつくり、2年後には隅田川の西側を受け持つ「いろは四十八組」、東側の深川・本所を受け持つ深川本所十六組を編成し、本格的な町火消を発足させました。これは江戸の街全体を対象にした初めての消防組織で、享保の改革の一環としてとても重要な施策となり、これにより江戸の大火は激減しました。

当時の消火は延焼を防ぐ破壊消火で、燃え移る家に先回りして家を壊すため、町火消の大半は、土木や建築に精通した町民である鳶や大工であったとされます。町火消は町奉行の指揮下に置かれ、その

ときにそれぞれの組が分担して、「延焼を防ぐため、ここまでの家を壊す」という火事場で作業に当たる組の目印として纏が用いられました。その後、纏は火消組のシンボルとして欠かせないものになりました。

この様に町火消は、郷土愛と正義感の強い血気盛んな職人集団ですから、現場での喧嘩(消口争いなど)も多く、喧嘩の道具として鳶口などが使われてしまうため、消防器具は厳しく管理されました。やがて江戸時代が終わり明治以降、町火消は消防組となり、その後は郷土愛と正義感を(それに血の気も・・・)引き継いだまま、現代の様な消防団となりました。



大岡越前は、広く民の声を聞いてそれを地方行政に取り入れ、江戸の街を守っていきました。忠相は他に、江戸のゴミ問題にも着手しました。回収業者を許認可制にして独占権を施行、集めたゴミをリサイクルさせて業者が利益を上げた分、認可とのバーターで城の堀など公共地の清掃をさせていたということです。越前様は賢いですね。従って本当の大岡裁きとは、町民を裁いたのではなく、江戸クリーン作戦として大都市のゴミ処理をした、実は「大岡捌き」だったとは、お後がよろしいようで・



写真は、今でも団員の多くが建築関係者である第11支団第3分団が8月28日に鳩ヶ谷分署で行った、放水の自主訓練の様子です。

第1支団&第2支団合同訓練

第1支団第1分団 班長 井口 直也



火災現場でよく顔を合わせることの多い第2支団の皆様と合同訓練を去る7月24日(日)に荒川リバーステーションにて実施いたしました。

実際の火災を想定した訓練で、火災指令→第1出場→第2出場という流れで車両4両を使用して放水訓練を実施しました。無線による指令も本番さながら、南消防署の指揮隊も見学に来てくれました。第1支団としては他支団との合同訓練は初めてです。第2支団の皆様とは実際火災現場では一緒に作業することも多く、今回の訓練でより一層の連携プレーが出来るようになりました。

これからも定期的にも実施していきたいと思えます。



荒川の自然水利を使用



第1出場隊のホース延長



合計4口の放水

第1支団親睦バーベキュー大会

第1支団第1分団 班長 井口 直也

去る9/11(日)に第1支団恒例の親睦バーベキュー大会を行いました。天気予報では雨でしたが降ることもなくラッキーでした。元々団員の家族を労うバーベキュー大会でしたが、今回はお隣の第2支団、南消防署、北消防署、団係も参加していただいて総勢65名の賑やかなバーベキュー大会となりました。用意したのは焼肉25キロ、生ビール100リッター、焼きトウモロコシ、焼きそば、もんじゃ焼きなどなど。変わったものは団員が用意した鹿肉。第2支団並びに消防職員の方々とも親睦が計れてとても有意義な親睦会となりました。



新入団員辞令交付式

第4支団第1分団 団員 田村 真一

7月2日土曜日、4-1車庫において新入団員の辞令交付式が行われました。1分団は、新しい団員を迎えて13名となりました。定員は15名ですので、まだまだ足りない状況です。分団長をはじめ、全員で歓迎いたします。

今回入団したのは、小竹さんです。職業は水道屋さんですので、困り事はぜひどうぞ。

新井部長は、小竹さんの為にランウェイを作り、防火衣を渡すときは、左右を団員が固め、まるでモデルが歩くように分団長のところまで進んでもらいました。ある意味で禊(みそぎ)の洗礼を受けた小竹さんでした(笑)。

末永くよろしくお願ひ致します。



【編集後記】

第3支団第1分団 団員 近藤隆生

団ネット48号、いかがだったでしょうか？ まだまだ広報委員として不慣れな状況ですが、快く原稿依頼に答えてくださいました団員の方々、広報委員の方々のおかげで無事発行することが出来ました。

これから年末に向け、団関係のイベントも増えてまいります。皆さん健康に気を付けて頑張っていきましょう！

次号は12月下旬 発行予定です

